

来たる2月25日には2016年度トレーナー検定試験が実施されます。かつてご自身も400時間時間の指導経験を経て、トレーナー検定試験の厳しい関門を潜り抜け、トレーナー資格を取得された後、英語指導者育成に情熱と誠意を持って取り組まれ、現在はトレーナー検定委員としても活躍されている狩野晶子さんからの熱いメッセージをお届けします。

2016年10月号

J-SHINE 通信



狩野晶子さん

上智大学短期大学部 英語科 准教授
J-SHINE 理事
J-SHINE 小学校英語指導者育成トレーナー
J-SHINE 小学校英語指導者育成トレーナー検定委員

■J-SHINE資格、トレーナー資格取得のきっかけ

J-SHINE 資格を取得したきっかけは勤務校で児童英語教育に関わる立場となったことでした。まだ小学校英語が必修化となる前のことです。自分は大学で英語を専攻し、大学院で第二言語習得を専門に学び、子どもに英語を教えた経験もたくさんありました。でも「児童英語教育」という枠組みで教えるにあたって、きちんと理論と現場での実践を結びつけたいと思い、体系的に学べるアルクの通信講座を受講し資格を取りました。

その後、トレーナー検定試験というものがあると知りましたが、言語習得理論や英語力、さらに指導実践力も必要な厳しい試験だということで躊躇していました。でも出願に必要な400時間の指導経験を、子育て期間中に児童英語教室や保育園で子どもたちに英語を教えていた経験で満たすことが出来るとわかり、自分が好きで取り組んできたことが資格に結びつくならばと思い試験を受けました。

■トレーナー検定試験の体験談

筆記試験では書いて、書いて、手がつりそうになりました。最後に時間が足りなくて空欄で出したあの用語の定義…今でもトラウマです。そしてドキドキしながら受けた実技試験では、他の受験生のコメントから、人を褒めつつ厳しく伝えるべきは伝える難しさをあらためて感じました。今、研修講座などでほかのトレーナーのコメントを聞く機会が増えて感じるのは、ポイントをついた、相手が納得するような厳しいコメントをするには、しっかりと観察していないといけな。きちんと見ているから、きちんとと言える。そして根っこには相手の向上と成長を望む気持ちがある。トレーナー検定試験は日々の自分と人との向き合い方が問われる試験です。トレーナーは知識と実践力を併せ持ち、人にアドバイスをし、人のアドバイスを素直に受け止める懐の深さ、人間力、さらにはJ-SHINE 有資格者のフロントランナーとしての自覚と、その期待に応える覚悟が問われているのだと感じます。

■トレーナー資格取得後の主な活動

私がトレーナーになって得た財産はまず、トレーナー同士の繋がりがです。年齢も立場も、活躍のフィールドも様々な素晴らしいトレーナーの皆様に仲間として遇していただき、さらに研修やワークショップと一緒に企画運営や指導をする機会を得て、それぞれが豊富な知識と実践、指導経験を持ち、そして人間力にあふれ、熱意に満ちたトレーナーの輪の中に入れてことの幸せを感じています。

現在私は勤務校で児童英語教育関連の科目を担当し、学生が小学校で行う英語活動の授業の指導監督を行っています。必修化以降、小学校英語の分野での専門知識と実践経験、指導力を併せ持った人材が求められているのを痛感します。そのニーズの高まりとともに、私自身のフィールドも広がってきました。トレーナーによる自主開催のワークショップや講座の企画運営、講師、パネリストやここ数年は地域自治体や小学校での研修、児童英語教育関連の研修講座の講師などを務めさせていただく機会が増えました。どれもとてもやりがいのある、しかも自分の学びにも繋がるものです。このような場をいただけるのもJ-SHINEの繋がりがあってのことと思います。



■トレーナー資格取得を目指している方々へのメッセージ

2016年10月現在、トレーナーの数は115名。ますますこの輪が広がっていくように、今後もたくさんの方々にこの試験にチャレンジしていただきたいと願っています。筆記と実技、両方一度に合格できなくてもあきらめずにトライし続けて下さい。試験を受けることによって、自分に足りないものが何かが見えてくるはず。そこから自己研鑽と飛躍のチャンスなのだと思います。

英語は楽しく面白いものであってほしい、子どもならなおさら。その思いが自分の原動力になっています。私は幼少期から中学生にかけ、フィリピンと南アフリカ共和国で8年間を過ごしました。いずれも英語圏だったので学校や生活の中に英語があり、小さい頃から英語で遊び、歌い、踊って、英語を使って様々な体験をして、全身で英語に触れました。その楽しかった幼少期の英語体験がベースになって、英語が好きで英語が得意な今の自分があります。その頃に耳から入った英語の音やリズムは今の自分の英語のまさに「素地」と実感しています。でも「英語は楽しく面白く」といっても、funだけを求めるのは違うと思います。子どもの発達段階に合ったものを本当に意味のあるコミュニケーションの場面で使って、interesting や engaging も含めた英語の楽しさ、面白さであるべきです。そうでなければ本当の意味での習得にはつながりません。

教え込むのではなく、いつの間にか染み込んでずっと残る英語の学び。コミュニケーションとしての英語。J-SHINEを通じてその理念で通じ合える仲間に出会うことが出来ました。トレーナー仲間ですべての話をするといつも皆の口から出るのが、「それぞれ全く違うフィールドでそれぞれにがんばっているけど、みんな目指す方向が同じだね」という言葉です。「子どものために」「より良い英語の学びのために」そして大きく「より良い明日のために」それぞれが全力で前向きに、笑顔で魅力いっぱい走っている仲間がいます。そんな仲間をぜひ、皆さんにも見つけていただけたらと願っています。

* J-SHINE 通信 Web ページ

この2016年10月号をはじめ、過去に発行したJ-SHINE 通信はすべてJ-SHINEのWebサイトから配信しています。

こちらからご覧ください。

<http://www.j-shine.org/tsuushin.php>



今月の花 ケイトウ